

『おくのほそ道』の学習への期待その2

『おくのほそ道』の学習でやってみたいこと

(7) 松尾芭蕉という人物

- ☐ 芭蕉の俳句をもっと知りたい、味わいたい。
- ☐ 芭蕉について、いろいろと調べたい。
- ☐ 芭蕉はなぜ旅をしたのか知りたい。
- ☐ 芭蕉はどのような旅をしてきたのか。
- ☐ 芭蕉はどんな人だったのか。
- ☐ 芭蕉はどんな人生を送ったのか調べたい。
- ☐ 芭蕉の家庭の様子について知りたい。

(8) 『おくのほそ道』への興味

- ☐ 『おくのほそ道』はどのような内容なのか、深く理解していきたい。
- ☐ 『おくのほそ道』について、もっと詳しく調べてみたい。
- ☐ 『おくのほそ道』のように、奥の奥までいろんなことを調べてみたい。

(9) 芭蕉の俳句

- ☐ 松尾芭蕉の俳句をいくつか覚えたい。
- ☐ 芭蕉がつくった俳句を年代や場所を追って見てみたい。
- ☐ できるだけたくさんの作品について知りたい。
- ☐ 場所を決めて芭蕉のように俳句をつくってみたい。

(10) 古典の学習

- ☐ 昔の言葉を読めるようにし、意味を理解したい。
- ☐ 文語に慣れるようにしたい。
- ☐ 文語の意味をよく理解できるようにしたい。
- ☐ 大事なところをしっかりと覚えたい。
- ☐ 『おくのほそ道』に使われている表現技法を覚えたい。
- ☐ ちゃんと訳したい。

生徒の知的欲求を生かしたい

生徒が書いてくれたものは、どれも納得のいく内容でした。一般的な授業では、授業者が教えた内容や扱いたい内容が先にあります。あるいは、決まっています。そのことに対して、生徒に興味・関心をもたせ、いかに意欲を高めていくかが授業者の腕の見せ所でもあります。

今回は、『おくのほそ道』の学習に入る前に、どんなことをやってみたいかを書いてもらったところ、どれも扱いたくなるようなものばかりでした。生徒の知的欲求には驚かされました。一斉授業ではなく、生徒一人一人が自分のやりたいことを深く追究していくスタイルの授業をやってみたくなるほどでした。その際、必要があれば、同じテーマの生徒同士でグループになるのもいいでしょう。授業者は、アドバイザーを務めればいいでしょう。学習のゴールは、個人ごとのプレゼンです。イメージは、大学生の研究レポートや卒業論文でしょうか。

今回は、ジグソー学習を取り入れましたが、生徒のすべての要望には応えられてはいません。そこで、学期に一度ずつ、5時間×3回、計15時間程度でいいので、個人追究型、個人テーマ設定型の授業ができないだろうかと考えさせられました。特に古典学習には合っている、いや求められるスタイルなのではないでしょうか。